

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 203	福山市立城南中学校
最終更新日		2026 年（令和 8 年）3 月 9 日

I 福山市	ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。 ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。
-------	---

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資・能	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
- 子ども達の主体性について、教職員のサポートがしっかりと行われている。 - 家庭と連携して個別に指導していることが伝わってきた。 - 生徒自身が考え、決める・選ぶことを大切にしていることがよく分かった。	「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多くの児童生徒に定着している。 - 知識、技能の定着に課題がある。 - 学ぶことが面白いと実感している児童生徒は多いが、自ら課題に取り組むことができてはいない。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	- 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 - 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等	- 学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。 - 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

Ⅲ 自 校

ミッション		
生徒一人一人の学びを最大限に引き出すために、 ・ 個々の生徒の状況を丁寧にみる ・ 臨機応変に対応する		
学校教育目標		
自律 ～自ら考え、決めて、選ぶ～		
現 状		
<生徒> ・ 87.9%の生徒が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答しており、昨年と数値が変わらず、定着している。 ・ 「学校生活の中で、自分の考えが認められている。」と回答する生徒の割合は91.0%となり、自らを表現できる環境をつくることができている。 ・ 運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は 24.4%となっている。 ・ 学校図書館を利用したことのない生徒の割合は 27.0%となった。 <授業> ・ 授業で考えるのは楽しいと肯定的に回答した生徒は 71.0%。 ・ 課題について自分の「ことば」で説明できていると回答した生徒は 79.6%。		
育成する力 資質・能力	・ 課題発見する力（課題をみつける） ・ 対話する力（コミュニケーション） ・ 認める態度（人としての思いやり）	
めざす 子ども像	・ 明確な目標をたて、その目標にせまる学び方を自ら見出し、解決に向けて方法をさぐる。 ・ 課題解決のために自己の経験などから意見を伝えたり、他者の考えを評価したり、深めたりして、互いの考えを生かし合う。 ・ 自己の考えや行動に責任をもつとともに、他者の思いや立場を尊重することで、互いに高め合う。	
研究	テーマ	まなぶ 学力の向上
	主題・ 内容等	○ 「知識・技能」の定着を図り、自分自身の「ことば」で説明できる力をつける。 ・ 生徒の学びの姿から、教師が教えることと、生徒が考えることを選ぶ。 ・ あらゆる方法で、生徒一人一人の学びの姿をとらえる。 ・ 生徒の「学びたい」を引き出す。
めざす授業の姿		○ 生徒自ら学び、確かな学力をつける ・ 生徒が自ら課題（問い）を考え、自分の「ことば」で表現する。 ・ 生徒が学び方を決めて、解決に向けた方法をじっくり選ぶ。 ・ 自分や周りとの対話をくり返しながら、学びを深め、高め合っている。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70以上 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70以上 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
5	1 生徒自ら、知識を習得するための学び方を探究し、課題に気付く力を育成する。	★	見直し	学校と家庭での学習を繋げる工夫を行い、生徒の知識の定着を図る。また、子どもが自身の「言葉」と「数」で表現する力を育成する。	・生徒自ら選んで家庭学習に取り組めるよう工夫する。	・自分で考え、決めて、選んで授業での課題や家庭学習に取り組むことができていると回答する生徒の割合を90%以上にする。 ※2024年数値なし	□各教科で研究シートを作成し計画的な授業改善サイクルが回るようにした。 □教科会で、習熟度の異なる生徒が状況、目標に応じて「考え、決めて、選ぶ」ことができる課題、授業とつながる課題、ICTを活用した課題など工夫した取組を検討、共有した。 ・評価指標の数値は79%	3	2	引き続き教科研究シートをもとに生徒のつまずきを把握し、授業改善や出題する課題を工夫する。 学習習慣定着に向けた取組を学年、教科で意図的に設定する。 取組を家庭へも発信する。	□これまでの取組を継続しながら、授業改善や重点取組について定期的に振り返る機会を設けた。各教科での取組を全体でも共有できるようにした。 ◎福山市学力定着状況調査では、40%未満の生徒の割合が1学年では23%増加、2学年では7%減少した。 ・評価指標の数値は79%	3	2	3	生徒の実態を丁寧に見取り、各教科の特性に応じた課題設定ができるように協議を続け実行していく。 試験2週間前にはテスト範囲の内容をスタディサプリで配信し、家庭学習を促進している。
			見直し		・授業や特別活動の中で、生徒自身が考え取組むことができるよう教職員が導いていく。	・自分が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答する生徒の割合を90%以上にする。 (現状88%)	□生徒総会や行事などで、生徒自身が意見を発信し交流、実行する場を設けた。 ・評価指標の数値は89%	4	3	特別活動や行事に加え、各教科の授業や総合的な学習の時間の中で、生徒自身が考え、決めて、選ぶ場面を意図的に設定する。	□総合的な学習の時間を中心に、生徒自身が考え、決めて選ぶ活動を設定することができた。 ◎教科や家庭学習での取組を充実させる必要がある。 ・評価指標の数値は86%	3	3	4	今年度の取組を継続するとともに、各行事・取組の意義を教職員間でより丁寧に共有する。
5	2 生徒一人一人の個性を大切にした教育活動を実践する。		継続	教職員と生徒の対話、生徒と生徒の対話、それぞれを大切にする。	・生徒が安心して個性や考えを表現できるような環境を提供する。	・学校生活の中で、自分の考えが認められていると回答する生徒の割合を増加させる。 (現状91%)	□授業を軸とした学習班の活性化を重点取組とした。各学級で班長会を適宜開催している。また学期はじめには教員と生徒の面談を行い、対話できる環境を整えた。 ・評価指標の数値は90%。	3	3	夏季休業中に生徒理解に関する研修を実施した。 団長、班長などリーダーを育成しながら安心、安全な集団になるよう支援する。 生徒会活動において、自分の個性を表現できる機会を設ける。	□生徒会活動において、自分の個性を表現できる場として「私服登校日」を実施した。 ◎特別活動では意図的な取組ができた。 授業での学習班によるグループ活動を充実させる必要がある。 ・評価指標の数値は90%	4	4	4	今年度の取組を継続するとともに、学習班での活動を充実させるためのエンカウンターを計画的に実施する。

			継続		・週1回の「学びプロジェクト委員会」で個々の状況を協議し必要な支援を行う。	・新規不登校の出現率を減少させる。 (現状2.0%)	□週1回の学びプロジェクトで、生徒及び保護者の願いを把握し手立てを共有した。各学年担当と担任が連携し取組を進めた。 ・評価指標の数値は0.5%。	4	4	週1回の学びプロジェクトの中で、「長期的な支援が必要な生徒」と「短期的な支援が必要な生徒」を明確にし、より効果的な支援を行う。	□長期的な支援が必要な生徒と短期的な支援が必要な生徒を隔週で共有することで、手立てと結果の把握が容易になった。 ◎対話を通して手立てを考え講じることができた。 ・評価指標の数値は0.9%（1月末時点）	4	4	5	今年度の取組を継続し、より丁寧な状況把握、校内連携、家庭連携につなげる。
2	3		継続	健康促進、体力づくり、本を読む習慣の定着など、自分の心と身体の育成について生徒会執行部を中心に取組を考え実行する。	・生徒と教師が共に委員会などの取組を計画し、実行する。	・各種委員会が計画する活動や取組に協力したり、参加したりしている生徒の割合を90%以上にする。 ※2024年数値なし	□各種委員会の提案、取組に加え、城南杯と題して各種委員会の取組をポイント制にして、各縦割り団で高め合える工夫をした。 ・評価指標の数値は83%。	4	3	各種委員会の取組や城南杯における生徒の活動に対して、達成感が得られるよう工夫する。	各委員会の取組として、チャイム席、読書の励行、教室環境美化活動などを行ったが、一つ一つの活動の意義を十分に伝え切れていないことが課題。 ・評価指標の数値は79%	4	3	4	各委員会活動の意義を担任中心に生徒に丁寧に伝えていくことや、生徒会も新体制となり、次のリーダー学年の意識をさらに高める手立てが必要である。
5	4		継続	主体的に新たなことにチャレンジしている教職員を増やす。	・それぞれの職員の適性や能力にあった役割分担を行う。 ・教職員同士が「子どもの姿」を共有できる環境をつくる。	・「仕事にやりがいを感じる」と回答する職員の割合を増加させる。 (現状93.8%)	□落ち着いた授業に参加できない生徒への指導や、生徒指導上の問題について組織的に取り組み、共有を図った。 ・評価指標の数値は84.8%。	3	2	・引き続き、チームで動くことを徹底し、教職員個々が負担を抱え込まないようにする。	生徒指導上の課題については各学年主任・学年担当と生徒指導主事が密に連携を取り、常に複数の教員で組織的な対応ができている。 ・評価指標の数値は87.9%	4	3	4	やりがい・意欲の向上に向けては一部の教員だけでなく、すべての教員が生徒・保護者と信頼関係を築くために、そのスキルを身につけることが必要である。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。